

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	経済学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.1 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針
小項目	6.1.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
要素	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示 教育目標と学位授与方針との整合性 修得すべき学習成果の明示
小項目	6.1.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
要素	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示 科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
小項目	6.1.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
要素	周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	6.1.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 学部・大学院5年一貫のカリキュラム体系を設置し、教育の質を高め、早期卒業制度を利用し、学士号と修士号の授与者数を現在の1名から5年後に5名へ増やす。	→学士号と修士号の授与者数。	B
2. ジョイント・ディグリー制度を活用し、他学部から優秀な学生を入学させ、2つの学士号の授与者数を現在の1名から5年後に5名へ増やす。	→ジョイントディグリー制度を利用して他学部から経済学部に入ってくる学生数とその学生のGPA。および、学士号の授与者数。	B
3. 現行の8コース制を5コース制へ再編成し、各コースごとに学部・大学院合併科目（中級・上級科目）を新設する。そして、上位科目の履修者を増やし、KG経済学士力を向上させる。	→学部・大学院合併科目（中級・上級科目）の履修者数とその平均点。	B
4. HPを利用して、新しい5つのコース制や学部・大学院一貫制に基づく新カリキュラム体系を公表し、社会にKG経済学士力の内容を周知させる。	→HPの作成・更新とアクセス数。	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

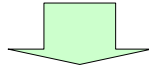
☆ 小項目6.1.1	(方針) 学生への告知を低年次から行い、学生の意欲を増進させる。 (現状説明) 企業や社会が求めている、経済学の基盤を有した実践力を持った人材の育成を教育目標とし、履修心得に記載。 1. 早期卒業制度により大学院に進学する学生を促し、2010年度へ向けて経済学研究科に1名、経営戦略研究科に1名進学する。
☆ 小項目6.1.2	(現状説明) 2. ジョイントディグリー制度による他学部からの優秀な学生の獲得数は、2009年度は1名であった。しかしそのGPAは上位1%以内であった。 3. 教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の見直しは検討を開始したばかりであるが、現行の8コース制から5コース制へ移行し、学部科目の序列化をする。上位科目となる学部・大学院の合併科目については、学部学生の大学院科目履修数は、3科目7名「上級マイクロ経済学I（2単位）2名、上級計量経済学I（2単位）1名」である。
☆ 小項目6.1.3	(現状説明) 4. 現行の教育目標、学位授与方針、教育課程の編成、実施方針は、教職員に周知されている。また、学生には、授業科目履修心得を通して周知。社会へは、ホームページを通じてお知らせしているほか、『エコフォーラム』（2010年3月に5,000部発行し、オープンキャンパス等でも高等学校・受験生・保護者にも配布）もその役目を担っている。
☆ 小項目6.1.4	(現状説明) 学部執行部にて、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っている。新しいカリキュラムのHP掲載はしておらず、社会への公表、学部生への公表はしていないため検証はこれからである。

☆	その他
---	-----

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目6.1.1	
小項目6.1.2	
☆ 小項目6.1.3	
小項目6.1.4	
その他	



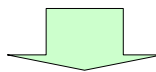
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目6.1.1	
小項目6.1.2	
☆ 小項目6.1.3	
小項目6.1.4	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目6.1.1	
小項目6.1.2	
☆ 小項目6.1.3	
小項目6.1.4	8コース制から5コース制への再編に関する公表。
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目6.1.1	
小項目6.1.2	
小項目6.1.3	
☆ 小項目6.1.4	5コース制への移行は教授会において了承されている。現在、2012年度実施を目指し、新カリキュラム体系や学部・大学院一貫教育などは検討中ではあるが、「8コース制から5コース制へ。2012年度実施」を2011年度中にHPなどでその枠組みだけでも公表する。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

☆	その他 (自由記述)
---	---------------

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○6.1.2の現状説明によると、教育課程の編成・実施方針の見直しは検討を開始したばかりとのことですが、整合性のある教育課程の構築は学部教育の根幹ですので、早急な対応が望まれます。
 ○「目標」1、2、3は次項6.2の「教育課程・教育内容」に相当するのではないかと考えられます。
 ○「KG経済学士力」という概念が用いられていることは、経済学部として「KG学士力」を実質化していこうとする意欲を学部全体で共有していることの表れとして、評価できます。
 ○「改善すべき事項」の6.1.4は、「公表」に着目すると6.1ですが、改善の内容に着目すると次項の6.2に属するのではないかと考えられます。

【学内委員】

○小項目6.1.3について改善に向けた施策を考える必要があり、記述することが好ましいでしょう。
 ○小項目ごとの説明欄6.1.1では、「方針」のところに学位授与方針そのものも記述してください。6.1.2についても同様、(方針)を記載してください。
 ○新しいカリキュラムについて、早急に公表することが望まれます。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 学部独自の学位授与方針や教育目標等についてはすでに存在し、周知されていた。しかし、本報告シート記入時点では、いわゆるディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーに関しては、検討段階にとどまっていたため、それぞれの方針を記述することをしなかった。なお、ディプロマ・ポリシーについては、今年度内に学部内で決定し、11年度公表を目指している。また、カリキュラム・ポリシーについては、現在進行中のカリキュラム改革とあわせ、12年度公表を目指している。

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

6.1.0.S1	カリキュラムの編成や体系等を常に検討する委員会の有無と開催頻度
6.1.0.S2	MDSプログラム履修者の全学生に占める割合
6.1.0.S3	ジョイント・ディグリー制度への参加者の全学生に占める割合
6.1.0.S4	専門教育、教養教育、外国語教育、情報教育等ごとの授業科目開設数
6.1.0.S5	必修・選択ごとの開設授業科目数
6.1.0.S6	系列別卒業必要単位数

<個別的な指標>
